

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 のびのびあい・ランド		
○保護者評価実施期間	2025/1/14		2025/2/10
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2025/1/14		2025/2/10
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025/2/21		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別対応のフリーオベラント療法を行っている中で、1対1、1対2の手厚い療育が行えているところ。個別だからこそその行動観察や分析を細やかにし、発達理解と支援方法を幅広く分析・実施しながら支援できること。	利用児の表情や行動、発声・発語などの細かい所まで観察している。関わる中で逆模倣したり、くすぐり等の身体接触を通して発語を促す支援をしている。個々の発達段階に合わせた支援方法を月に一度のミーティングで、個々のケースを出し合って話し合いをしている。	スタッフ全員が、利用児の個別支援計画書や記録に目を通し支援の目的や方法を知る。また、保護者面談報告書を見たり面談をした職員の話しを聞く中で、保護者支援の理解も共有できるようになる。
2	外遊びの時間を多く持てる所。	安全に外遊びにいける体制づくりをしている	ひきつづき、充実したスタッフの配置ができるよう人員の調整に努めます。
3	空きが出た際のスポット利用など、臨機応変な利用方法ができている所	体調うかがいの連絡や、利用希望等、働いておられる保護者の方もやりとりをしやすいよう心がけている。	引き続き、迅速な連絡のやりとりに努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	午前クラス・午後クラスそれぞれのスタッフが日々の話し合いをする時間を確保することが難しい。	各クラスの子どもの滞在時間が長く、話し合いをする時間がとることが難しい。	おやつ後の室内での自由遊びの時間に、数名のスタッフが子どもを見て、残りのスタッフが事務所に入り、報告や課題等の話し合いが出来る時間が取れる様に工夫する。
2	職員のスキルアップの為に研修や勉強会に参加する時間がない。	上記同様。	午後クラスにおいてペア児を作り、療育を行うスタッフの人数を調節し、時間の確保をする。また、民間の研修会や講演会の情報を収集する。
3	送迎の負担が大きい	各保育園の時間に合わせた送迎になる為、送迎時間の負担が大きい。	ドライバーと車両の確保であるが、現実的に難しい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援事業所 のびのびあい・ランド
------	----------------------

公表日 2025年 2月 21日

利用児童数 2025年 2月 18日 回収数 19名

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き確保する。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き確保する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18			1	概ね「はい」という評価だった。	引き続き確保する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19				全て「はい」と意評価だった。	引き続き確保する。
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19				全て「はい」と意評価だった。	引き続き行う。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18			1	概ね「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	1		2	概ね「はい」という評価だった。 様々な所へ連れて行っていただき子どもの発達を促していただいています。	引き続き行う。
11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	13	3		5	概ね「はい」という評価だった。	引き続き行う。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	1		1	概ね「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	19				概ね「はい」という評価だった。 その日の様子を口頭やノートによって詳しく伝えて頂いています。	引き続き行う。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18		1		概ね「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	3	1	3	概ね「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16			3	概ね「はい」という評価だった。	引き続き行う。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き行う。

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	1	1		概ね「はい」という評価だった。	引き続き行方。ケアット通信にて日々の療育の様子をお伝えしている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18			1	概ね「はい」という評価だった。	引き続き行方。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15			4	概ね「はい」という評価だった。	訓練を实地した日は付箋に記載して連絡ノートに貼る等、保護者に認識して頂きやすい対応を引き続き行方。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	1		4	概ね「はい」という評価だった。	引き続き行方。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18			1	概ね「はい」という評価だった。	引き続き行方。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き行方。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19				全て「はい」という評価だった。	引き続き楽しみに通所して頂くように努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19				全て「はい」という評価だった。 毎日楽しんで通わせていただいています。	引き続き行方。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19				全て「はい」という評価だった。	今後も保護者の皆様のニーズをお聞かせいただき、保護者の皆さんと連携して子どもたちの発達を支援していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所 のびのびあい・ランド				公表日	2025年 2月 18日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		戸外活動児と室内遊び児に分けるなどしてスペースの確保を行なっている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		1対1及び、1対2で手厚い療育を行なっている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		配慮している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		清潔を保ち、安全に過ごせる環境を整えている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		個別療育室(プール部屋)を活用できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		行なっている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		行なっている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		月に2回、全スタッフもしくは、午後スタッフでミーティングを行い、話し合いが出来る場を設けている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		繋げている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		講師の滞在、助言の元、勉強会を月に一度行っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		行なっている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		行なっている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		確認をしている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		行なっている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		工夫している。	同じ公園や施設になるべく続けて行かないように配慮している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		行なっている。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		行なっている。	当日の担当表に必要な連絡事項が記されており、重要なことは口頭での確認も行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	共有している。	午前クラスの振り返りの時間の確保が毎日取りにくいいため、時間を作れるように努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		行なっている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	3	図っている。	事業所内職員間での共有を徹底する。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	5	設けている。内部にスーパーバイザーがいて、直接助言をいただいている。	スーパーバイザーにあたるスタッフを職員に周知する。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	1	戸外活動時に、地域児と一緒に遊んだり関わりを持つことがある。	より関わりを持つようにしていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		共通理解を持っている。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		行なっている。トリプル研修や、フリーオペラント勉強会を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		保護者会を年に2回行っている。(親子遠足を含む)	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		対応している。	

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	2	発信している。事業所として日々の活動の様子を発信している。	ケアット通信をスタッフに見てもらえるように準備をする。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	法人としては行っているが、事業所としては行っていない。	事業所としてどのような行事が行えるのかを考える。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	5	アレルギー児専用の皿やコップを準備し、アレルギーの種類が分かるように皿にテプラで貼って分かりやすいように工夫している。	医師の指示書の提出を徹底して頂く。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	1	虐待防止研修を行っている。身体拘束を行う対象児がいない。	新規スタッフが入った際に、管理者が個別に説明を行う